# 【クリニカルクエスチョンの設定】

# スコープで取り上げた重要臨床課題(Key Clinical Issue)

EGFR遺伝子変異(エクソン19欠失またはL858R変異)陽性, PS 0-1のⅣ期非小細胞肺癌患者に対し, 一次治療と してEGFR-TKI勧められるか?

サブ:オシメルチニブが勧められるか?

#### CQの構成要素

P (Patients, Problem, Population)							
性別	指定なし						
年齢	18歳以上の成人						
	ECOG PS 0-1の再発または進行期非小細胞肺癌, EGFR遺伝子変異(エクソン19欠失またはL858R変異)陽性						
地理的要件	医療体制の確立した地域						
その他							

#### I (Interventions) / C (Comparisons, Controls) のリスト

Interventions; オシメルチニブ Comparisons; 第一世代EGFR-TKI

#### O (Outcomes)のリスト

	O (Outcomes) W 7X												
	Outcomeの内容	益か害か	重要度	採用可否									
01	全生存期間	益	9 点	0									
O2	無増悪生存期間	益	8 点	0									
О3	毒性	害	8 点	0									
04	奏効率	益	7 点	0									
O5	QOL	益	7 点	0									
O6			点										
07			点										
08			点										
О9			点										
010			点										

### 作成したCQ

#### CQ47-a

EGFR遺伝子変異(エクソン19欠失またはL858R変異)陽性, PS 0-1のⅣ期非小細胞肺癌患者に対し, 一次治療と してオシメルチニブが勧められるか?

# 【二次スクリーニング後の一覧表】

文献	研究デザイン	Р	I	C	0	コメント	文献情報	PubMed ID (URL)
Soria JC, et al. N Engl J Med 2018 FLAURA	RCT		80mg/body 毎日	ゲフィチニブ 250mg/body 毎日 or エルロチニブ 150mg/body 毎日	主要評価項目:PFS		OS update Ramalingam SS, et al. N Engl J Med 2020 https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/31751012  QOL報告(PROs) Leighl NB, et al. Eur J Cancer 2020 https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/31838405  日本人サブセット報告 Ohe Y, et al. Jpn J Clin Oncol 2019. https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/30508196/	https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/29151359
Cheng Y, et al Target oncol. 2021 FLAURA China	RCT	18歳以上 進行期 EGFR変異陽性(19del/L858R) PS 0-1 未治療		ゲフィチニブ 250mg/body 毎日	主要評価項目:PFS	第Ⅲ相試験		https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/33544337/

# 【4-7 評価シート エビデンス総体】

7	
診療ガイドライン	CQ47a:EGFR遺伝子変異(エクソン19欠失またはL858R変異)陽性, PS 0-1のⅣ期非小細胞肺癌患者に対し, 一次治療としてオシメルチニブが勧められるか?
対象	ECOG PS 0-1の再発または進行期非小細 胞肺癌, EGFR遺伝子変異(エクソン19欠失 またはL858R変異)陽性
介入	オシメルチニブ
対照	第一世代EGFR-TKI

エビデンスの強さはRCTは"強(A)"からスタート、観察研究は弱(C)からスタート

\* 各ドメインは"高(-2)"、"中/疑い(-1)"、"低(0)"の3段階

\*\* エビデンスの強さは"強(A)"、"中(B)"、"弱(C)"、"非常に弱(D)"の4段階

\*\*\* 重要性はアウトカムの重要性(1~9)

# エビデンス総体 リスク人数(アウトカム率)

アウトカム	イン/		非一 貫性*	不精 確*	1女   土个	その 他 は イ な ど )*	(観察 研	対照群分母	対照 群分 子	(%)	介入 群分 母	介入 群分 子	(%)	効果 指標 (種類)	効果 指標 統値	信頼区間	エビデ ンスの 強さ**	重要性 ***	コメント
生存期間	2	0	-1	-1	0	0											中(B)	9	ESMO2019
無増悪生存期間	2	0	-1	-1	0	0											強(A)	8	
毒性	2	0	-1	-1	0	0											強(A)	8	
奏効率	1	0	-1	-1	0	0											中(B)	7	
QOL	1	0	-1	-1	0	0											中(B)	7	

# コメント(該当するセルに記入)

生存期間		2RCT	2RCT								
無増悪生存期間		2RCT	2RCT								
毒性		2RCT	2RCT								
奏効率		1RCT	1RCT								
QOL		2RCT	2RCT						differe nce	p=0.165	

# 【4-8 定性的システマティックレビュー】

С	Q	CQ47 a	EGFR遺伝子変異(エクソン19欠失またはL858R変異)陽性, PS 0-1のIV期非小細胞肺 癌患者に対し, 一次治療としてオシメルチニブが勧められるか?					
Р			ECOG PS 0-1の再発または進行期非小細胞肺癌, EGFR遺伝子変異(エクソン19欠失またはL858R変異)陽性					
I	オシメルチニブ							
С			第一世代EGFR-TKI					
	臨床的	勺文脈	オシメルチニブは第一世代EGFR-TKIと比較し、02(無増悪生存期間)を有意に延長した。01(全生存期間)についても、のちに行われた解析において有意に延長することが示された。03(毒性)は、一部において第一世代EGFR-TKIと比較し少ない結果がみられた。本試験の日本人集団においては間質性肺疾患が12.3%(95%CI:5.5-22.8、8例/65例)と報告されており、全体集団に比して高率であった。04(奏効率)及び05(QOL)は、2群間で有意な差はなかった。					

01	全生存期間
3.	なし
非直接性のまとめ	
バイアスリスクの まとめ	なし
非一貫性その他の まとめ	評価できる試験が1つ
コメント	

02	無増悪生存期間		
非直接性のまとめ	なし		
バイアスリスクの まとめ	なし		
非一貫性その他の まとめ	評価できる試験が2つあり一貫した結果が示されている		
コメント	id  FLAURA  FLAURA Chine  Overall, DL (I² = 0.0%, p = 0.411)  I .5  NOTE: Weights are from random-effects model	exp(b) (95% CI)  0.46 (0.37, 0.57) 0.56 (0.37, 0.85) 0.48 (0.40, 0.58)	% Weight 78.74 21.26 100.00

О3	毒性
非直接性のまとめ	なし
バイアスリスクの まとめ	なし
非一貫性その他の まとめ	評価できる試験が2つ 日本人集団サブ解析で間質性肺疾患が12.3%と高率であった。

コメント	

04	奏効率
非直接性のまとめ	なし
バイアスリスクの まとめ	なし
非一貫性その他の まとめ	評価できる試験が1つ(FLAURAのみ)
コメント	

O5	QOL
非直接性のまとめ	なし
バイアスリスクの まとめ	なし
非一貫性その他の まとめ	評価できる試験が1つ(FLAURAのみ)
コメント	